

新型コロナウイルスと災害8

■避難の実態4  
表佐に台風が接近、あるいは直撃しそうな前日。風雨の強さにもよりますが、2日前までにやっておくべき、食糧等の備蓄品の確認・外回りの確認・車のガソリン・情報収集先の確認・停電や浸水への準備・家族での避難先の確認等できていないことを済ませましょう。

もしこれまでにやったことがないならば、台風がたいしたことがなさそうでも、一度やってみましょう。

●車を避難

移動させられる大きな「財産」は車ではないでしょうか。台風が直撃している中で移動は、大変危険です。もし2台以上所有ならば、1台は残して後は避難させた方が良いでしょう。

親戚や知り合いの家、あるいは避難所になる垂井町の施設など、冠水しないような場所への避難を勧めます。

●勤め先等からの帰宅経路・方法等の確認

トイレや食事が可能な商業施設も1つの選択肢です。また、車中泊を積むならば、必要な物品を積み込んでおく必要があります。

いても学校や会社に行く場合もあります。学校は警報が出ていなくても休校になることが多くなりましたが、会社は様々です。帰宅時には道路が通行止め、電車も不通になることがあります。

●会社で泊まること

会社で泊まることですが、できればいいのですが、宿泊場所や食事等の確保は確認しておく必要があります。

表佐野球少年団

1月11日、新年最初の活動として南宮大社と勝神社に参拝しました。例年は南宮大社への参拝後にトレーニングを行うのですが、今年は雪のため中止。そして餅つきもコロナの感染拡大の状況から今年は残念ながら自粛することにしました。



参拝後、小学校の体育館で抱負の発表をいたしました。新たな目標に向かって頑張っています。イベントが縮小して残念ですが、みんなの笑顔を見ることができました。コロナに負けず今年も活動していきましょう。



がんばれ表佐の子

表佐剣道少年団

12月19日にクリスマス会をしました。ここ数年は、まちづくりセンターを借りて、食事をしていたり、ゲームをしたりしていましたが、今年は難しいので、稽古終わりの体育館で簡単にしました。内容は、竹刀で新聞切りとカルタです。例年とは違った形のクリスマス会でしたが、子ども達は楽しんでくれたようでした。



2・3月の休館日	
2月	2日(火)
	9日(火)
	12日(金)
	16日(火)
	23日(火)
	27日(土)
3月	2日(火)
	9日(火)
	16日(火)
	21日(日)
	23日(火)
	30日(火)

表佐まち協だより

ちさと

2021年2月1日  
表佐まちづくり協議会  
垂井町表佐 1723-1  
Tel・Fax22-1011  
Mail:osakou@town.tarui.lg.jp  
広報部会



中面は太鼓特集です



まち協ホームページQRコード

表佐の田んぼ

水田の面積：約190万㎡(190町歩)。内、稲作従事者数：65名はアグリ請負。栽培品種：コシヒカリ・ハツシモ・あさひの夢(主食用)だけでなく、加工用米・飼料用米も栽培しています。料用米約80t(農協出荷分)(JA表佐より資料提供)

- 生き物のすみかをつくる  
生き物が食べたり食べられたりする食物連鎖によって、多くの生きものが集まり、つながって生きています。
- 癒しやすらぎをもたらす  
「澄んだ空気」「きれいな水」「美しい緑」「四季の変化」は、相川や伊吹山と一体となった風景として、癒しやすらぎをもたらします。
- 伝統・文化を伝える  
表佐では、太鼓踊りや祭り、水乞いや五穀豊穡祈願や収穫を祝います。
- 人と人をつなぐ  
道直し、草刈り、ほたるの里、小学生の体験学習など、つながりを太くします。

(農林水産省ホームページ参照)

みずほ 瑞穂の国に住む幸せ

田んぼの働き(多面的機能)

- 主食の米や麦をつくる  
日本の食料自給率(カロリーベース)は、38%(アメリカ・フランス等は100%以上)と低い、主食用の米は100%。
- 洪水を防ぐ  
大雨が降ったとき水を一時的に貯めて、洪水を防止・軽減します。
- 土砂崩れを防ぎ大地を守る  
作物が栽培され、雨や風が直接「土」に当たらないため、土が流れ出るのを防いでいます。
- 暑さを和らげ、大気を調整する  
作物が光や熱を吸収し、暑さを和らげ、炭酸ガスを吸収し酸素を発生させます。
- 資源のリサイクル  
土中の微生物が家畜の排泄物や生ゴミからつくった堆肥を分解し、農作物が養分として利用しやすい形に変えます。
- 地下水をつくり水質を浄化する  
田んぼに貯まった水は、ゆっくり時間をかけて地下水になる間に、微生物によって有機物が分解されてきれいな水になります。



イラストは農林水産省のホームページより

田んぼを支える団体

●JA(農業協同組合)  
農業者をはじめとする組合員の相互扶助組織で、農業に直接関係のある流通・販売以外にも、生活に密着した事業を行っています。

●表佐アグリ

個人農家の水田を集積し、稲・小麦・野菜を栽培しています。栽培技術の確立・向上、省力化などに取り組んでいます。

●土地改良組合

農業者・地権者により組織された団体で、かんがい排水や区画整理等、農地に関するハード面の事業や管理を行っています。

●農事改良組合

むらづくりの自主的推進団体として整備され、現在生産調整をはじめとする、営農・農政課題に取り組んでいます。

●農業委員会

農地等の売買・貸借の許可、遊休農地の調査・指導等農地の確保と有効利用を図る上で重要な役割を担っている町の行政委員会です。

●農業共済

農業災害補償制度の実務を担っています。

●表佐地区推進会議

農地維持活動等を通じ、農地・農業用水等の保全管理や農村環境の保全、水路・農道等の長寿命化を図ります。この事業は国からの交付金によって行われています。(令和2年度は約1千5百万円)(Wikipedia他参照)

ハリネズミ

「冬来たりなば春遠からじ」という言葉があります。つらい時期を耐え抜けば、幸せな時期は必ず来るといふたとえです。しかし、「コロナ」による冬はいつまで続くのか。出口のわからないトンネルは、人を不安に陥れ、歩みを止めたり、暴走させたりします。しかし、ワクチンの接種が始まりそうだというニュースが聞こえてきます。ワクチンへの不安は消えませんが、一筋の光明ではあります。また、何が大切なのかも気付かされてきているのではないのでしょうか。その一つを新聞で読みました。それは「利他意識」です。人間は動物の中で身体的能力が圧倒的に弱いので、他者と協力し合うという形で社会をつくってきました。この協力こそが今日の繁栄を築き上げたのです。▼「利他意識」は「思いやり」ともいえます。

### 表佐太鼓踊りに思う

表佐太鼓踊り保存会 会長 富田栄次  
昨年はコロナウイルスで表佐祭り、表佐太鼓踊りが中止となりました。近年では戦争または台風で太鼓踊りが中止となった記録はありますが、疫病で中止となった記録は見当たりません。例年ですと夏の地藏院に始まり表佐祭りを迎えるまで各所から太鼓の音が聞こえてまいりましたが、昨年は静かな暑い日々が過ぎていきました。

また一昨年新天皇御即位を祝し表佐太鼓踊り出踊りを行うことができましたことをみなさまに改めて御礼を申し上げますところでございます。

感染拡大が少しでも早く収束に向かうことを心より願うとともに、この機会に表佐にとつてなくてはならない尊い財産「表佐太鼓踊り」について少し触れてみたいと思います。

### 表佐太鼓踊りの起源

太鼓踊りの始まりは定かでないが、故・藤墳芳美氏の「雨乞いと太鼓踊り」によれば、『宝暦12年(1762)の「禮参躍一件」に宝曆古記録から元禄時代以前に雨乞いと太鼓踊りを行っていたことが窺える。山頂や神社・仏堂の前庭で輪になって雷鳴のように太鼓・鉦鼓を打ち鳴らしている間に、音が揃い一つのリズムが出来上がった。』と記されており、江戸初期に雨乞い祈願から始まったと思われる。(垂井の文化財、1989年14集より一部抜粋)

### 太鼓踊りの種類及び順序

#### 例年の太鼓踊り

(江戸後期から毎年行う様になってからの太鼓踊り)

- 一、打込み
- 二、築地(音頭の歌で踊る)
- 元禄(打鼓)
- 笹の葉踊り(音頭の歌で踊る)
- 表佐宮代(打鼓)
- 三、金堀踊り(音頭の歌で踊る)
- 長(打鼓)
- 四、貝吹踊り(音頭の歌で踊る)
- 表佐(打鼓)
- 五、綾踊り(歌に合せ打鼓)
- 六、四十雀(打鼓)

台打ち  
(本番の前に行う下打ち)

- 元禄(打鼓)
- 表佐宮代(打鼓)
- 長(打鼓)
- 表佐(打鼓)
- 四十雀(打鼓)

### 出踊り

(全住民総出で国、地域の慶祝の時のみ特別に行う踊りで、雨乞いの礼踊りの形態を残す)太鼓踊りの順序、内容は例年と同じであるが打ち込みの隊列は、先頭の部に露拂い二人(捻鉢巻、奴姿)案内人四人(袴、陣笠、昔は帯刀、明治以降は扇子を右手に持つ、袴)音頭一人(素足、草履、浴衣、一文字笠)、端(鼻)太鼓一人(笠に紅白の幣をつける)隅(角)太鼓四人側太鼓一六人、鉦鼓打各太鼓に一人(襦袢、袴、捻鉢巻、襷がけ)采振各太鼓に二人、子供四十四人(花笠、襷がけ、軍配)歌おろし(紋付、羽織、袴、一文字笠に葉付きの牡丹の大きな造花をつけてかぶる)配役が先導し次に役采、鉦鼓、太鼓、采、鉦鼓、役太鼓、采と縦一列に並んで入場し輪をつくる。

(垂井町観光協会「表佐太鼓踊り」より)



### 「出踊りについて」

出踊りについてはいつ頃からどのような形態でおこなわれたか定かではないが、記録によれば明治四十二年の表佐小学校(現在の表佐保育園周辺)新築落成祝賀、大正二年、大正六年、大正十三年、昭和六年、昭和六十年・現表佐小校舎改築落成祝賀、平成十七年・垂井町合併五十周年、令和元年・新天皇御即位を慶祝して出踊りが行われた。

このうち大正二年の出踊りについて、「太鼓出踊記」(大正二年祭典の節)が保存会に残されている。

### 「太鼓出踊記」(大正二年祭典の節)

(現代語訳)

評議員会定約により、一区(二瀬古)毎に太鼓三柄(から)、鐘一個、計太鼓二十一柄、鐘七個を出演することと決め、(不足分は)青墓から四柄、青野から二柄借受けている。くじを引き、華(鼻・端)太鼓(はなだいこ)は川東、音頭太鼓は川西とし、川東は新町、勝之宮、多和田(後の相川)、東表佐(後の東葉)でくじを引き、川西は習井、鬼塚、大門でくじを引いている。

台打ち(下打ち)は現在四十雀(シジウカラ)までだが、当時は雷まで叩いていたことが分かる。( )内は、訳者注。



露払いを先頭に入場



打ち込みながら輪を作る



太鼓・采振・鉦鼓打



未来を担う少年太鼓



右の出踊り記録については、写真データを書き起こし、佐まちづくり協議会のホームページに掲載しています。



お願い  
今後、折にふれ表佐太鼓踊りの記事を掲載していきます。資料の提供やお気づきの点などありましたら表佐地区まちづくりセンターまでご連絡ください。